

SWCCグループ

2021年3月期 第1四半期
決算補足説明資料



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

July 31, 2020

<https://www.swcc.co.jp>

2021/3期 第1四半期決算総括

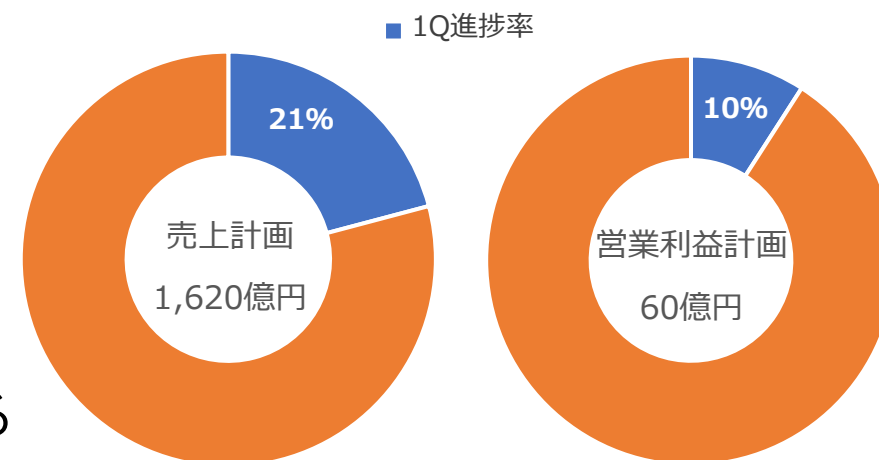
業績：コロナ禍の影響を受け、前年同期比で減収・減益

- ・エネルギー・インフラ事業は、建設関連向けにおいてコロナ禍による建設工事延期等に伴い、減収・減益。
 - ・通信・産業用デバイス事業は、データセンター向け通信ケーブル等は堅調に推移したものの、建設関連向けが減少し、減収・減益。
 - ・電装・コンポーネンツ事業は、自動車生産台数減少、電気機械向け需要低迷により、減収・減益。
- * 新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、柔軟な生産調整や不要不急経費の削減等を実施。

今期方針：

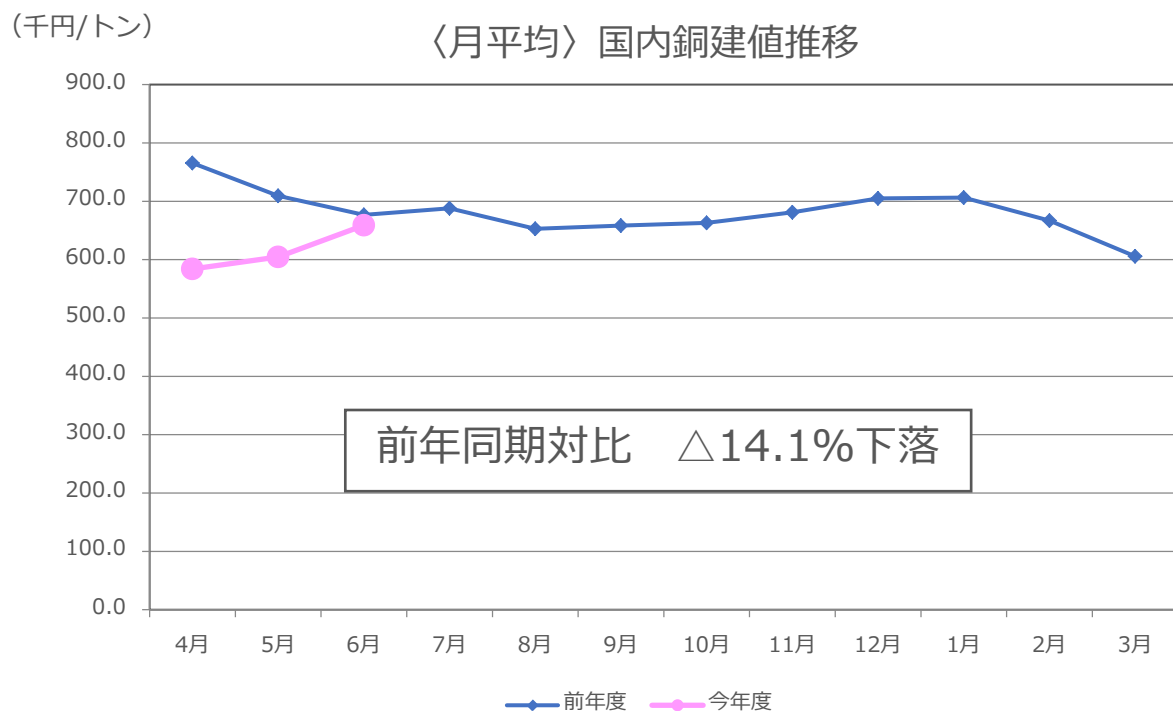
- ①コーポレートと事業セグメントが一体となり、柔軟性やスピード感ある判断と施策の実施
- ②業務革新による基盤事業の収益力強化
- ③ROIC経営の考え方の浸透、資本コストを意識した事業改革の推進強化
- ④新規事業の立上げの取り組みを堅持、発展の道筋をつける

1Q進捗率（売上高/営業利益）

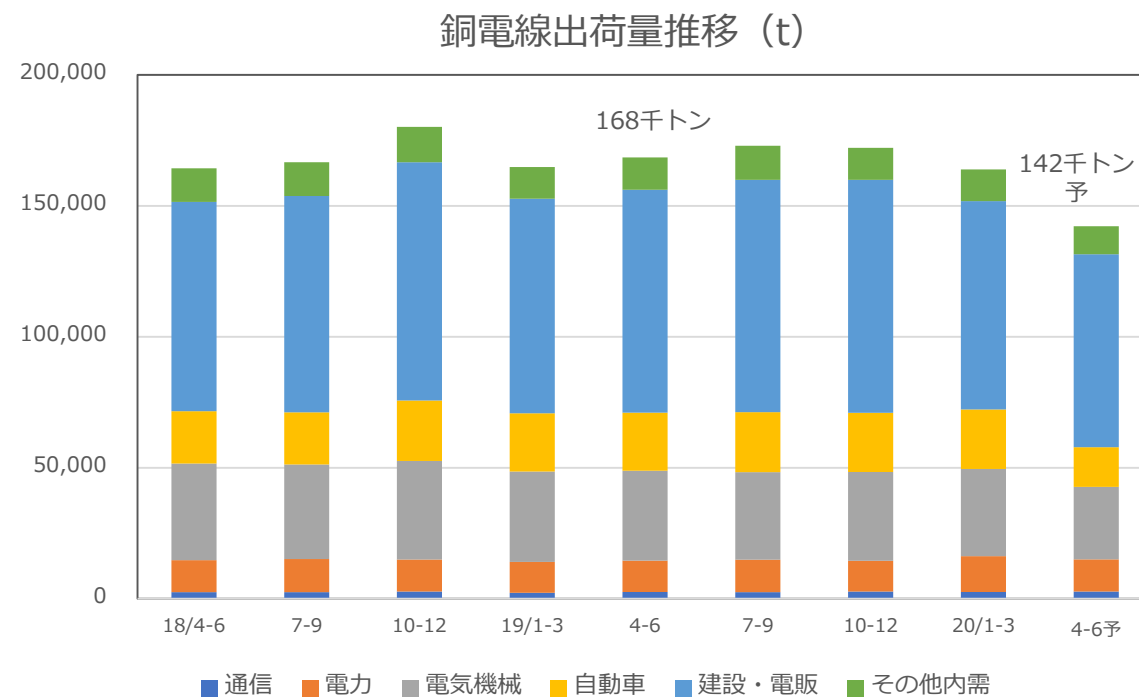


マクロ環境

- 国内銅価格（円ベース）は、中国の景気回復もあり足元は上昇傾向。
- 国内の銅電線出荷量は、建設・電販を中心に大きく減少。（前年同期比△16%）



出所：(社団) 日本電線工業会データより



出所：(社団) 日本電線工業会データより

1Q 連結損益計算書（前年同期比）

- 売上高は前年同期比△21.4%、営業利益は△62.7%。
コロナ禍の影響による急激な需要減により減収・減益、2Q以降回復へ。

(単位：億円)

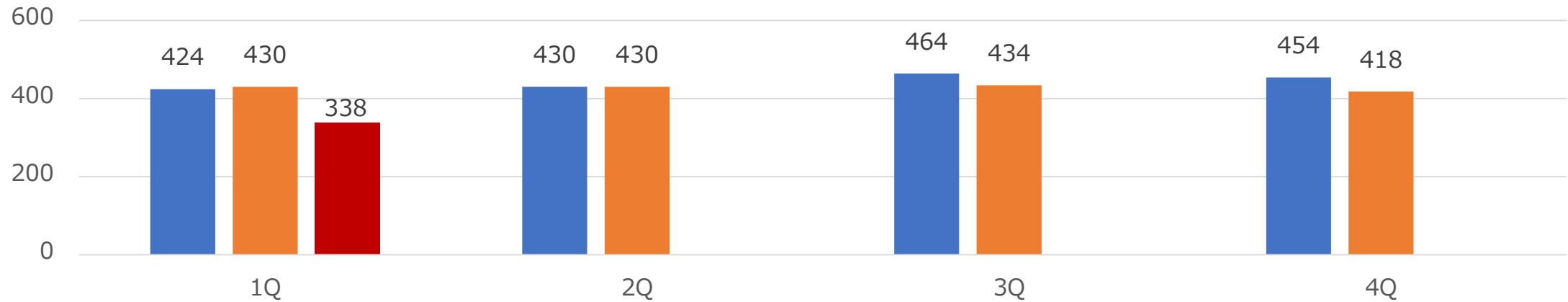
	2019年度 1Q実績	構成 %	2020年度 1Q実績	構成 %	前年同期比 %
売上高	430	—	338	—	△21.4%
売上総利益	54	12.5%	41	12.1%	△24.2%
営業利益	17	3.9%	6	1.8%	△62.7%
経常利益	15	3.5%	6	1.7%	△62.2%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	11	2.6%	4	1.2%	△64.6%

四半期業績推移（売上高：過去3期比較）

(単位：億円)

四半期毎の売上高推移

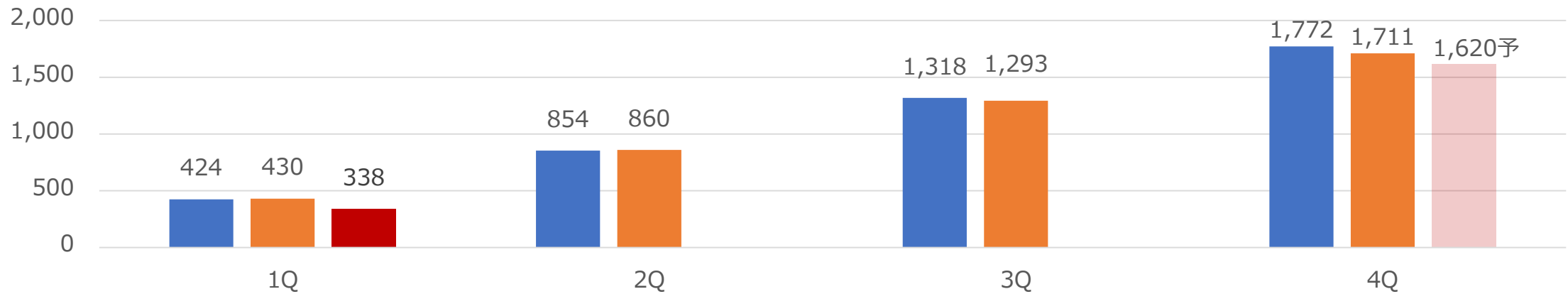
■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度



(単位：億円)

累計売上高推移

■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度

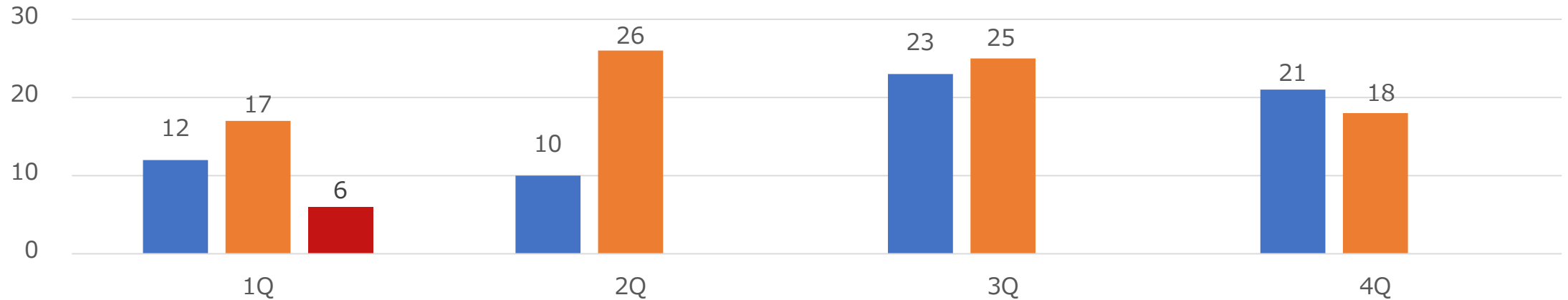


四半期業績推移（営業利益：過去3期比較）

(単位：億円)

四半期毎の営業利益推移

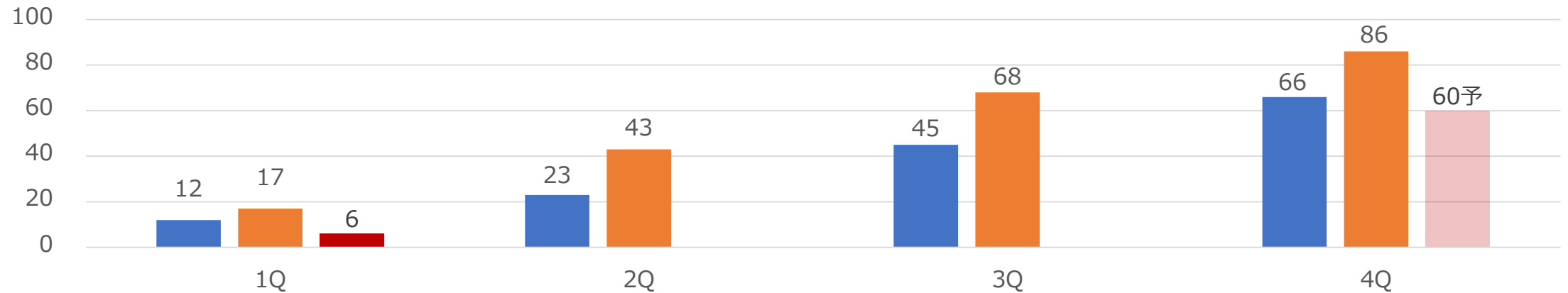
■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度



(単位：億円)

累計営業利益推移

■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度



セグメント情報（前年同期比）

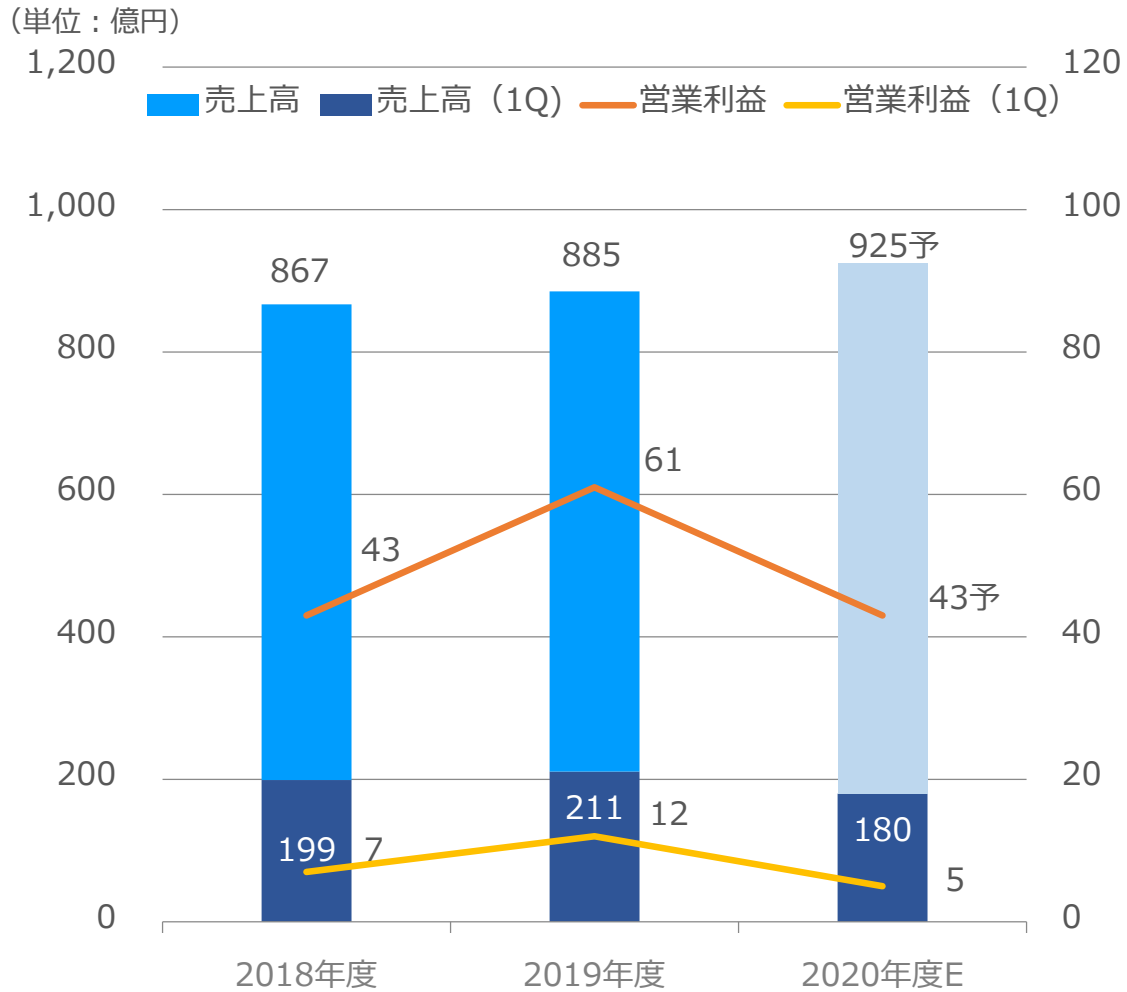
- コロナ禍の影響を受け、各セグメントで減収・減益となった。2Q以降は回復基調へ。

(単位：億円)

	2019年度 1Q 実績		2020年度 1Q 実績		増減	
	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益
エネルギー ・インフラ	211	12 (5.6%)	180	5 (3.1%)	△32	△6
通信・産業用 デバイス	76	5 (6.8%)	61	3 (4.4%)	△14	△2
電装・ コンポーネンツ	132	1 (0.9%)	87	0 (0.4%)	△44	△1
その他 (内新規事業)	11 (7)	△2 (△1)	10 (6)	△2 (△1)	△1	△1
合 計	430	17 (3.9%)	338	6 (1.8%)	△92	△10

エネルギー・インフラ事業

実績&業績計画



※2019年度3Qより一部セグメントを見直しております。

■特徴：当社の基盤事業

- ①発電所から家庭までを繋ぐ電力ケーブル
- ②当社独自の電力機器部品「SICONEX®」
- ③建築物に使われる電線や免震部材

* 今期より古河電気工業とのJV販社連結（当社60%）

- ◆建設関連向け需要は、コロナ禍による建設工事延期等に伴い減少。
- ◆電力インフラ向け需要は、東京オリンピック・パラリンピック開催予定に合わせた工事計画により、一時的に案件が減少。

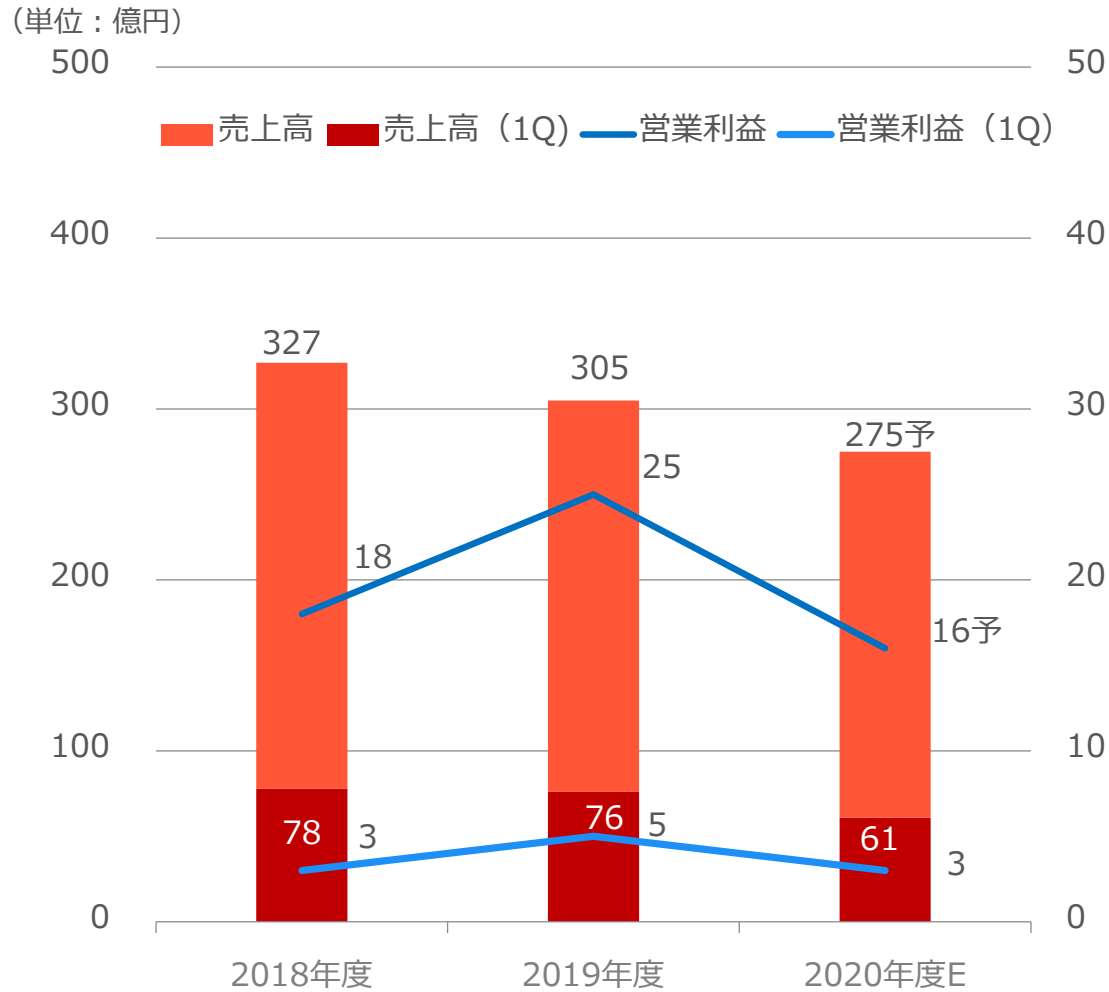
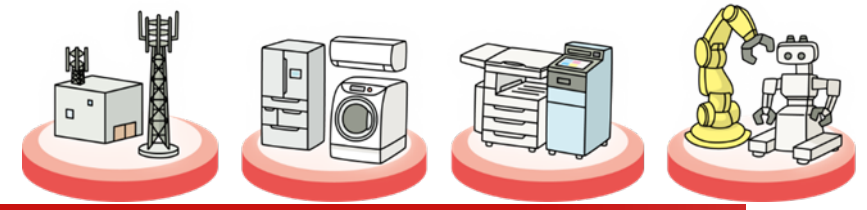
- 通期見通し：コロナ禍の影響で設備投資や住宅着工の需要は落ちるも、電力インフラ需要、倉庫やデータセンター需要も堅調で下期回復を想定。

売上高は925億円、営業利益は43億円を予定。

営業利益率：4.6%（前年度6.9%）

通信・産業用デバイス事業

実績&業績計画



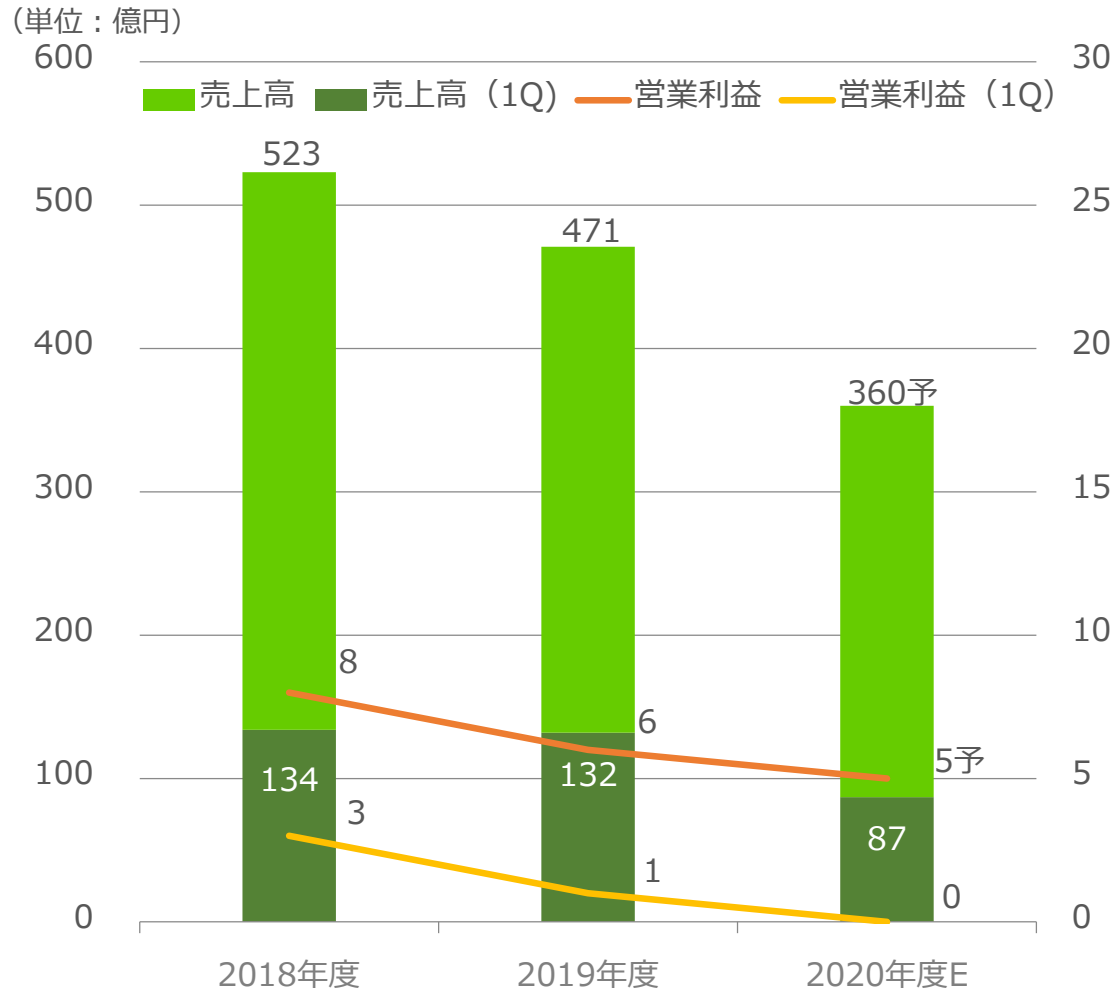
※2019年度3Qより一部セグメントを見直しております。

■特徴：通信ケーブルと産業用デバイスをグローバルに提供

- ◆通信ケーブルの国内5Gサービス向け需要は堅調であるが、建設関連向け需要は、コロナ禍による建設工事延期等に伴い減少。
- ◆産業用デバイス関連は世界的な新型コロナウイルス感染拡大による顧客工場の停止等の影響で減少。

■通期見通し：国内通信インフラ増強、GIGAスクール等活況。精密デバイスはコロナ禍によるサプライチェーンの変化に対応した構造改革を推進。

売上高275億円、営業利益16億円を計画。
営業利益率：5.8%（前年度8.2%）



■ **特徴**：日本で唯一のディップ・フォーミング・システムで製造した無酸素銅MiDIP® と銅合金線は戦略製品

- ◆ コロナ禍の影響により自動車メーカーが生産調整を実施したため需要が大きく減少。
- ◆ コロナ禍で設備投資関連等の電気機械向け汎用巻線の需要が減少。

■ **通期見通し**：従来の汎用品から高付加価値品主体の事業へ変革を推進中。下期以降の市場回復と環境対応車率増加を見込み、無酸素銅MiDIP®・銅合金線の戦略製品の拡販や車載用巻線増産により収益性の改善を目指す。

売上高は360億円、営業利益5億円を計画
営業利益率：1.4%（前年度1.2%）

貸借対照表（前期末比較）

- 自己資本比率は33.1%（前期末比0.8ポイントアップ）

（単位：億円）

	20/3/31	20/6/30	増減
現金・預金	43	46	+3
受取手形・売掛金	412	372	△40
棚卸資産	217	221	+4
その他	45	48	+3
流動資産 計	717	687	△31
有形固定資産	399	399	△0
無形固定資産	14	14	△1
投資その他の資産	94	95	+1
固定資産 計	508	508	△0
資産 合計	1,225	1,194	△31

	20/3/31	20/6/30	増減
支払手形・買掛金	186	174	△12
短期借入金・社債	295	305	+9
その他	157	139	△18
流動負債 計	638	617	△21
長期借入金・社債	119	109	△10
その他	68	68	+0
固定負債 計	187	178	△9
負債 合計	825	795	△30
資本金	242	242	0
資本剰余金	57	57	+0
利益剰余金	62	62	△0
その他	38	39	+0
純資産 合計	400	400	△0
負債・純資産 合計	1,225	1,194	△31

新型コロナウイルスによる影響

- 1Qは、5月決算発表時の想定内の影響にとどまる。
- 2Qから徐々に回復し、下期より本格回復基調に向かうと想定。

	市場環境（上期）		施策対応
エネルギー ・インフラ	国内	<ul style="list-style-type: none"> • 1Qに一時延期された建設工事は再開 • 電力インフラの強靱化需要は底堅い 	<ul style="list-style-type: none"> • 需要変動への生産体制対応 • 再生可能エネルギーの系統連系ビジネスモデルの強化
通信・産業用 デバイス	国内	<ul style="list-style-type: none"> • 1Qに一時延期された建設工事は再開 • 通信インフラ増強整備の需要が増加 	<ul style="list-style-type: none"> • 5G立上がり、GIGAスクール構想等の需要捕捉 • 新たなサプライチェーンと地産地消（中国、東南アジア）への構造改革
	海外	<ul style="list-style-type: none"> • 1Qは低迷した需要が、2Qになり回復基調 	
電装・ コンポーネンツ	国内 海外	<ul style="list-style-type: none"> • 自動車メーカーの生産調整は継続 • 今後の環境配慮型自動車割合の増加 	<ul style="list-style-type: none"> • 自動車産業の構造変化、環境配慮型自動車割合増加に向けて生産体制を強化
その他 （内新規事業）	国内	<ul style="list-style-type: none"> • テレワーク対応システムの需要は好調 • 遠隔医療やスマートワーク化の加速による需要増加 	<ul style="list-style-type: none"> • テレワーク対応システム商材増強 • 遠隔医療やスマートワーク化の加速によるメディカル向け部材、システム・サービスの需要増加に対応した拡販強化

2021/3期 通期業績予想

- ・ 5月15日公表の通期業績予想を据え置く。

(単位：億円)	2019年度 実績	構成 %	2020年度 計画	構成 %
売上高	1,711	—	1,620	—
売上総利益	237	13.9%	—	—
営業利益	86	5.0%	60	3.7%
経常利益	79	4.6%	55	3.4%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	55	3.2%	40	2.5%



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

お問合せ先

昭和電線ホールディングス（株）
事業戦略統括本部経営企画部
TEL：044-223-0520
E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

<https://www.swcc.co.jp>



本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。